

安否確認システムを活用した災害時の安否確認の基本方針

1. ANPIC について

災害時に、教職員・学生の生命と安全確保を最優先で行うため、構成員の安否状況を迅速に確認できるプラットフォームとして、本学は安否確認システム ANPIC を導入している。災害時における構成員の安否状況については、一義的に ANPIC で集約することとしており、ANPIC で得る情報は、大学機能の復旧業務にあたることのできる教職員の把握、政府や警察等関係機関への被害状況の報告など、幅広く活用される。そのため、各構成員は、ANPIC から安否確認メールが送信された場合、可能な限り応答することが求められる。

なお、各事務部においては、所掌組織の ANPIC 回答状況を確認する者（複数名）を予め明確にしておき、災害時に速やかに対応できる体制を整えておく必要がある。

2. ANPIC による安否確認について

本学においては、福岡県または隣接する県（佐賀・熊本・大分・山口）で震度5強以上の地震が発生した際に ANPIC から自動的に安否確認メールを送信する。なお、福岡県で震度5強以上の地震が発生した場合は、以下に記載のとおり、組織的な安否確認を行うこととする。

また、地震以外の緊急事態（大雨による洪水や大型台風の直撃等）の際も、状況により危機管理室が判断し、安否確認メールを送信する可能性がある。その場合も、組織的な安否確認を行う。

<教職員の安否確認>

事務局各部および各部局事務部の筆頭課・筆頭係で役割分担し、管理アカウント（4.を参照）を用いて所掌する教職員の ANPIC 回答状況を確認し、以下①②を実施する。

<学生の安否確認>

各部局事務部の学生担当係で役割分担し、管理アカウントを用いて所掌する学生の ANPIC 回答状況を確認し、教職員の安否確認と同様に①②を実施する。

①「無事」以外の回答者*への対応【最重要】

電話・メール等で該当者へ連絡をとり、対応（救助等）の必要有無を確認する。確認後、状況に応じて警察や救急への通報を行う。

*「軽症」、「重傷（動けない）」、または「その他（+自由記述）」で回答している者を指す。

②未回答者への対応

電話・メール等で該当者へ連絡をとり、安否確認を行う。確認後、状況に応じて警察や救急への通報を行う。

※①②の過程で把握した負傷者情報は、

- ・災害対策本部を設置していない時は、危機管理室へ下記必須項目を報告する。
- ・災害対策本部を設置している時（3.を参照）は、教職員は職員対策班（人事部）へ、学生は学生等対策班（学務部）へ下記必須項目を報告する。

（必須項目）

- A. 氏名・所属
- B. 怪我の状況
- C. 安全確保状況（安全な場所に避難できているか）
- D. 国籍（外国人の場合。各国大使館等に報告を求められることが想定されるため）
- E. その他特筆すべきこと

※各事務部の安否確認担当者は、日頃から ANPIC 管理アカウントの操作に慣れておく必要がある。危機管理室が年 1 回実施している全学の ANPIC 応答訓練も活用すること。

※ANPIC は本学の教職員・学生であれば特段の手続きなく利用できるが、初期設定では大学基本メールが登録されている。別のメールアドレスの追加や LINE 連携を行う場合は、九州大学危機管理ページを参照の上設定する。

<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/crisismanagement/riskmanagement/anpic>



九州大学危機管理ページ

3. 災害等対策マニュアルとの関係について

「九州大学災害等対策マニュアル(令和5年6月版)」の別紙7-1(事業継続計画(地震))に規定されているとおり、福岡市で震度6弱以上の地震が発生した場合、総長・理事で構成される災害対策本部が設置される。ただし、震度6弱未満の場合も、被害状況により危機管理担当理事の判断で災害対策本部が設置される可能性がある。

災害対策本部設置時は、各事務部での安否確認に加え、職員対策班(人事部)と学生等対策班(学務部)が全学の教職員・学生の安否状況を把握し、総務班(総務部)に情報集約の上、災害対策本部へ報告する。

各事務部は、職員対策班・学生等対策班へ負傷者等の情報を随時報告するとともに、職員対策班・学生等対策班がリストアップした ANPIC 未回答者等の確認依頼を受けた場合、速やかに対応する。

なお、緊急時は人手不足も予想されるため、各事務部において英語対応可能な職員が確保できない場合は、日本語での安否確認が難しい教職員・学生の安否確認を外国人研究者等対策班(国際部)へ依頼することができる。

4. 各事務部へ配付する ANPIC 管理アカウントについて

危機管理室から、各事務部につき1つ、所掌組織の ANPIC 回答状況が確認できる管理アカウントを配付する。当該アカウントを事務部内で安否確認担当者に共有し、安否確認を行う。また、災害対策本部設置時に備え、人事部には全ての教職員の回答状況が確認できる管理アカウント、学務部には全ての学生の回答状況が確認できる管理アカウントを配付する。

なお、平成30年度の ANPIC 導入時に発行した各部課・研究院等に細分化された管理アカウントは廃止する。

安否確認体制イメージ図（災害対策本部を設置しない場合）

※福岡県で震度5強の地震が発生し、ANPICからメールが送信された時



